



2021年3月期決算報告

2022年3月期業績見通し



〒 5 9 8 5

2021年6月8日

1.会社概要

2.2021年3月期決算概要

3.2022年3月期業績見通し

4.中長期の成長戦略

会社概要



会社概要

社名	： サンコール株式会社 SUNCALL CORPORATION		
設立	： 1943年6月		
資本金	： 48億8百万円		
本社	： 京都市右京区梅津西浦町14番地		
証券取引所	： 東京証券取引所 第一部		
従業員数	： 2,292名（連結） 622名（単体）		
主要株主	： 日本マスタートラスト信託銀行(株)		
	（退職給付信託口・(株)神戸製鋼所口）	15.8%	
	伊藤忠商事(株)	14.6%	
	伊藤忠丸紅鉄鋼(株)	12.0%	

（2021年3月末時点）

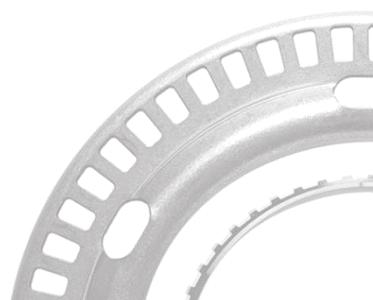
A partial view of a grey metal gear with teeth, located in the top-left corner of the slide.

技術をより良い世界のために

経営理念

技翔創変

サンコールは『技翔創変』という経営理念の基で企業の飛躍に邁進しております。

- ✓ 『**技翔**』とは、**技術を飛翔させていくこと**
特異な技術無くして、SUNCALLは存在し得ない
 - ✓ 『**創変**』とは、**変化を自分で作りだして行くこと**
世の中の変化についていくのではなく、変化をリードし、創造していく
- 
- A partial view of a grey metal gear with teeth, located in the bottom-right corner of the slide.

事業分野 / 主要製品

外側：2021/3期売上高
内側：2020/3期売上高

電子情報通信分野

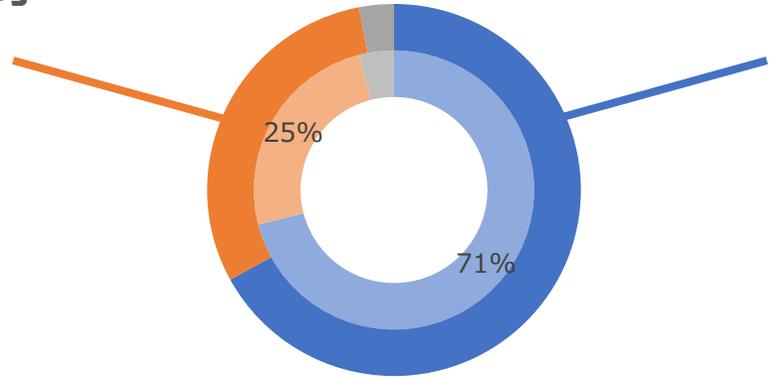
30%

(前期比+5%)

自動車分野

67%

(前期比▲4%)



HDD部品



HDD
サスペンション

プリンター部品



ローラー



トルクリミッター
スプリングクラッチ

通信関連部品



光コネクタ



光アダプタ

精密機能材料



弁バネ用線



精密异形線

精密機能部品



弁バネ



リングギア



ぜんまいバネ



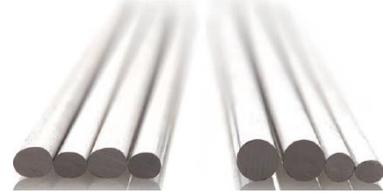
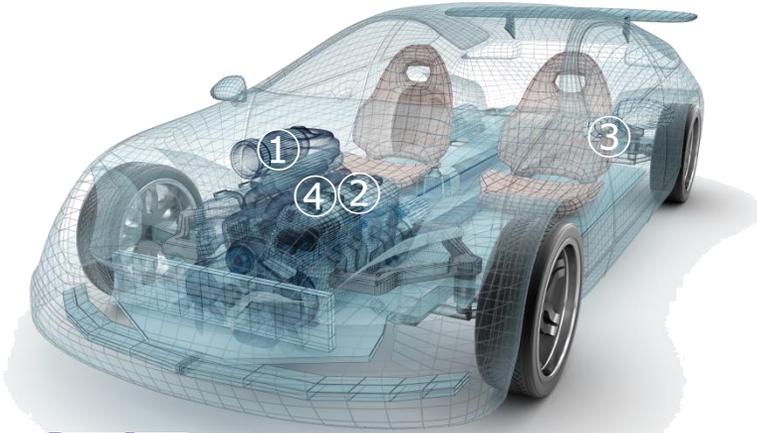
リアクターコイル



モーターコア部品

多様な用途に使用される当社精密部品-自動車分野

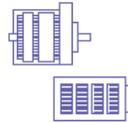
材料から加工まで一貫生産



一貫生産を支える当社の芯。
数々の独自技術に展開する
コア事業。安心・安全・高品質で
新規領域へ

材料関連事業・弁ばね用銅線 精密異形線

モーター・電気部品



ユニットの形状に合わせて個別に
設計。これからの配線の主役。

④バスバー



電流を流しながら、電圧を測定
できるという機能を盛り込んだ、
バスバー一体型センサー。
リチウムイオン電池のような大電流
にも対応。

④シャントonバスバー



過電流を検知すると通電部を
破壊瞬断する次世代センサー

④フューズセンサー



モーターの芯を構成する部品。
当社は自動で一貫生産し、
高い生産性を実現。

④モーターコア・ステーターコア



エンジン部品



国内シェアトップクラス。材料から
加工まで一貫生産により、高品
質、1億回の伸縮にも耐えられる
高耐久性を実現。

①弁ばね



ミッション部品



国内シェアトップクラス。独自の
金属加工技術で高精度を実現。

②リングギア・ドライブプレート

安全部品



材料から製造するため、精密なトル
クの調節が行え、快適性を実現。

③シートベルト用ゼンマイばね

多様な用途に使用される当社精密部品-電子情報通信分野

今後進展する5G・IOTや増加する在宅勤務での需要拡大が期待される製品群のキーデバイス

HDD用サスペンション

HDD

プリンター関連製品

ローラー

トルクリミッター
スプリングクラッチ

HDD磁気ヘッドを、数十ナノメートル単位で位置決めする
極限レベルの精度要求に対応



長尺・軽量・高精度シャフト供給
によりW/Wトップシェア



データセンター

通信関連製品

光コネクタ

光アダプタ

プリンター



サンコールの強み

蓄積されたノウハウと技術による実績と信頼

高度な精密塑性加工技術

金型 内製

- 引抜き加工用金型（ダイス）の内製化により、より複雑な形状の精密異形製品を創出。
- お客様の要求精度を満たしながら短納期化を実現。

品質 保証

- 高精度部品のものでづくりで得た計測ノウハウを応用展開。
- 独自のセンサー応用技術を活かしたインライン計測システムと制御技術を融合。品質・生産性を飛躍的に向上。

材料から製品までの一貫生産体制

材料 開発

- 鋼材の成分設計から関与し、お客様の要求仕様を満たす高応力や高耐久性に優れた高強度材料を独自に開発。

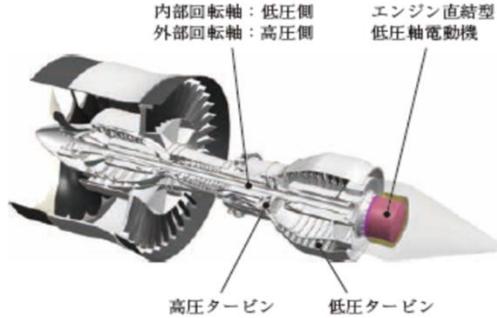
表面 処理技術

- 窒化処理や多段ショット等の表面処理技術を駆使し、高い疲労強度を実現。

次世代事業の開発



自動車電動化対応



ロコモアップ® 西岡社様にて使用

開発分野

環境・エネルギー

医療・介護機器



国内・海外拠点

国内14拠点

本社 京都府京都市

生産拠点

本社工場 京都府京都市

豊田工場 愛知県豊田市

広瀬工場 愛知県豊田市

国内子会社

サンコールエンジニアリング株式会社 山梨県南アルプス市

サンコール菊池株式会社 熊本県菊池市

営業拠点

東京支店 神奈川県横浜市

名古屋支店 愛知県豊田市

西日本支店 京都府京都市

上田営業所 長野県上田市

北関東営業所 栃木県宇都宮市

浜松営業所 静岡県浜松市

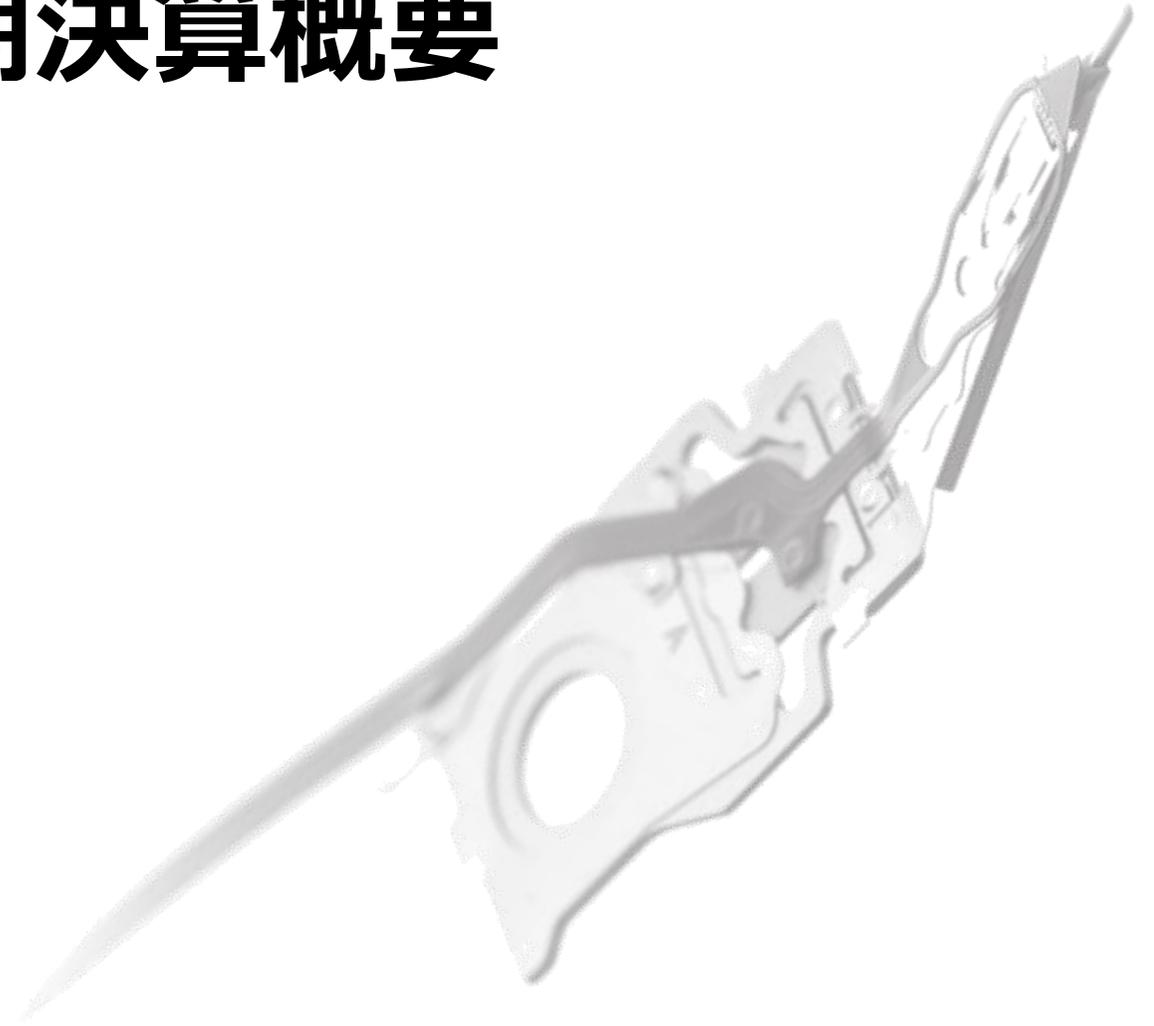
近畿営業所 京都府京都市

西日本営業所 広島県広島市

海外7カ国15拠点

国	地域	出資比率	生産品目
アメリカ	インディアナ州	100%	弁ばね、リングギアほか
	サウスカロライナ州	100%	光通信部品（販売拠点）
	テキサス州	100%	
メキシコ	アグアスカリエンテ州	100%	弁ばね用材料、リングギア
	アグアスカリエンテ州	50%	シートベルト用ぜんまいばね
中国	広州	100%	弁ばね、リングギアほか
	広州	100%	弁ばね用材料（販売拠点）
	佛山	25%	弁ばね用材料
	天津	100%	リングギア
	深圳	100%	プリンター用ローラー、 光通信部品ほか
	香港	100%	光通信部品ほか
タイ	チョンブリ県	100%	弁ばね、リングギア シートベルト用ぜんまいばね プリンター用ローラーほか
ベトナム	ハノイ	100%	プリンター用ローラーほか
韓国	梁山	49%	シートベルト用ぜんまいばね材料
フィリピン	マニラ	100%	HDD用サスペンション（駐在員事務所）

2021年3月期決算概要



2021年3月期 決算のポイント

2月修正予想値に近い形で着地。期初予想よりも営業赤字縮小

- **売上高 40,140百万円（前期比▲5.2%）**
- **営業利益 ▲1,293百万円（前期：1,375百万円）**

新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け減収・営業損失計上となるも、自動車分野は1Qを底に回復。電子情報通信分野は通年で順調（+16.4%）。下期は営業利益黒字化（12百万円）

新型コロナウイルス感染症の影響

- * 自動車販売及び生産は各地域とも回復傾向。昨年9月以降プラスに転じる。

自動車分野

- * 自動車関連
通期売上高は上期の落込みが大きく前期比減収も、下期売上高は市場回復に伴い同増収

電子情報通信分野

- * HDD用サスペンション
データセンター投資増に伴い、需要は高水準で推移。通期売上高は**前期比+29.2%**
- * プリンター関連
新型コロナの影響でオフィス向けは軟調も、在宅勤務に伴う家庭用特需により下期では**前期比+13.5%**を達成

2021年3月期 決算概要

- 売上高 新型コロナ感染拡大の影響を受け、前年比5.2%減収
 （下期はHDD用サスペンション需要増加及び自動車分野回復により、同9.2%増収）
- 営業利益 減収の影響及び積極的な戦略投資に伴う減価償却費増により、営業損失を計上。
 償却前営業利益は2,985百万円。
 操業度に応じて人件費（派遣費用・時間外）削減、経費コントロールを実施
- 売上高・営業利益・経常利益は、ほぼ2/12予想通りで推移。4Qで投資有価証券売却益8億円を計上

(百万円)	2020年3月期	2021年3月期				
	実績	実績	前期比	修正予想 (2/12修正)	修正予想比	(参考) 当初予想
売上高	42,354	40,140	▲5.2%	40,000	+0.4%	38,000
営業利益	1,375	▲1,293	—	▲1,270	—	▲1,900
償却前 営業利益	4,667	2,985	▲36.0%	—	—	—
経常利益	1,336	▲1,000	—	▲1,020	—	▲1,830
当期純利益	1,123	61	▲94.5%	▲370	—	▲1,280
一株当たり利益	35.3円	1.9円	—	▲11.7円	—	▲40.5
平均為替レート	108.7円/ドル	106.1円/ドル	—	—	—	—
	120.8円/ユーロ	123.7円/ユーロ	—	—	—	—

※償却前営業利益 = 営業利益 + 減価償却費

2021年3月期 四半期別決算概要 (3Q・4Q状況)

- 売上高 新型コロナの影響により、上期は大幅減収となったが3Qより回復
3Q,4Qともに前年同期比で増収となる
- 償却前
営業利益 前年同期比でHDD用サスペンションの新機種増加したが、生産効率改善未達
- 営業利益 下期で黒字化は達成
上記に加えて前年同期比で積極的な戦略投資に伴い減価償却費が増加

(百万円)	2020年3月期				2021年3月期				前年3Q比 増減額	前年4Q比 増減額
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q		
売上高	10,270	10,737	10,540	10,807	7,964	8,872	11,767	11,537	+1,227	+730
営業利益	156	301	613	304	▲745	▲560	87	▲75	▲526	▲379
償却前 営業利益	861	1,079	1,466	1,257	147	434	1,180	1,223	▲286	▲34
経常利益	200	290	669	176	▲876	▲484	246	114	▲423	▲62
当期純利益	120	208	※ 873	▲78	▲680	▲336	225	※ 852	▲648	+930
平均為替レート	109.9円/ドル	107.3円/ドル	108.7円/ドル	108.9円/ドル	107.6円/ドル	106.2円/ドル	104.5円/ドル	105.9円/ドル	-	-

※2020年3月期は、3Qに特別利益として投資有価証券売却益563百万円を計上、また2021年3月期は、4Qに特別利益として投資有価証券売却益805百万円を計上

※償却前営業利益 = 営業利益 + 減価償却費

2021年3月期 製品区分別売上高

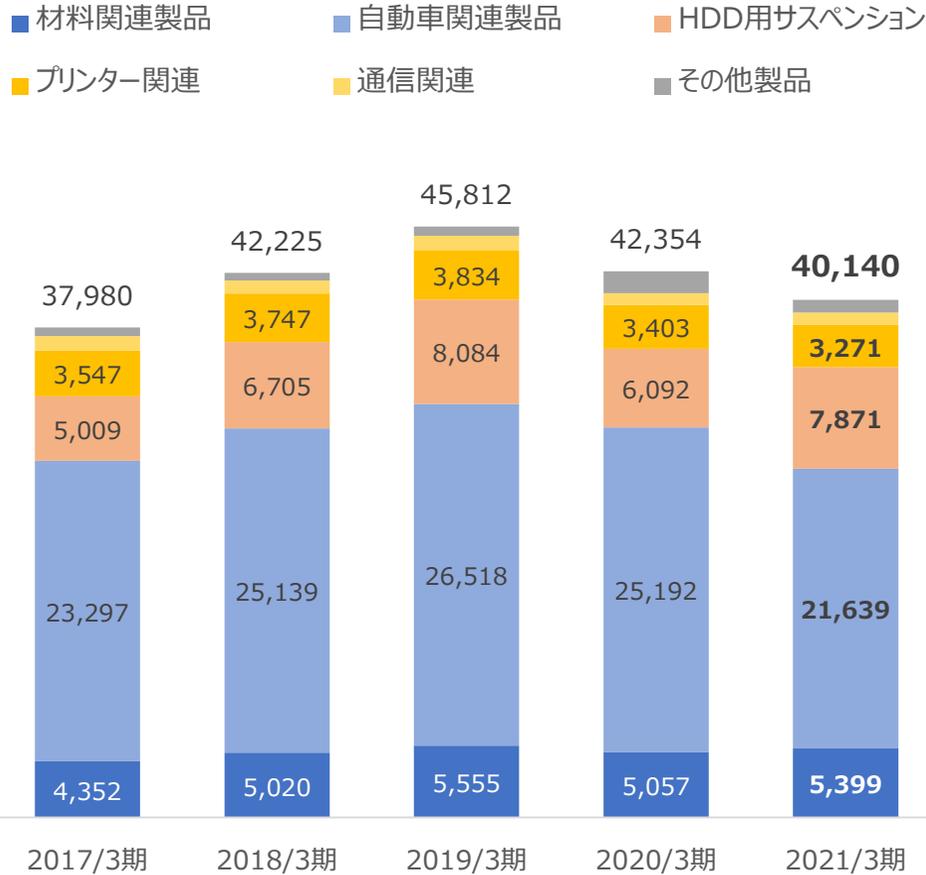
- 自動車分野 材料関連：自動車生産低迷の影響を受けるが、メキシコ・中国を中心に回復
自動車関連：新型コロナ感染拡大の影響により減収も3Qから前年レベルに回復
- 電子情報通信分野 HDD用サスペンション：データセンター投資に伴う需要増加で堅調
プリンター関連：オフィス向けは需要減も、家庭用特需により3Q以降回復
- その他 スマートフォン部品売上が減少

(百万円)	2020年3月期	2021年3月期	
	実績	実績	前期比
売 上 高	42,354	40,140	▲2,214 ▲5.2%
自 動 車 分 野	30,249	27,039	▲3,210 ▲10.6%
材 料 関 連	5,057	5,399	342 6.8%
自 動 車 関 連	25,192	21,639	▲3,553 ▲14.1%
電 子 情 報 通 信 分 野	10,396	12,106	1,709 16.4%
HDD用サスペンション	6,092	7,871	1,779 29.2%
プ リ ン タ ー 関 連	3,403	3,271	▲131 ▲3.9%
通 信 関 連	901	963	61 6.9%
そ の 他	1,708	995	▲713 ▲41.8%

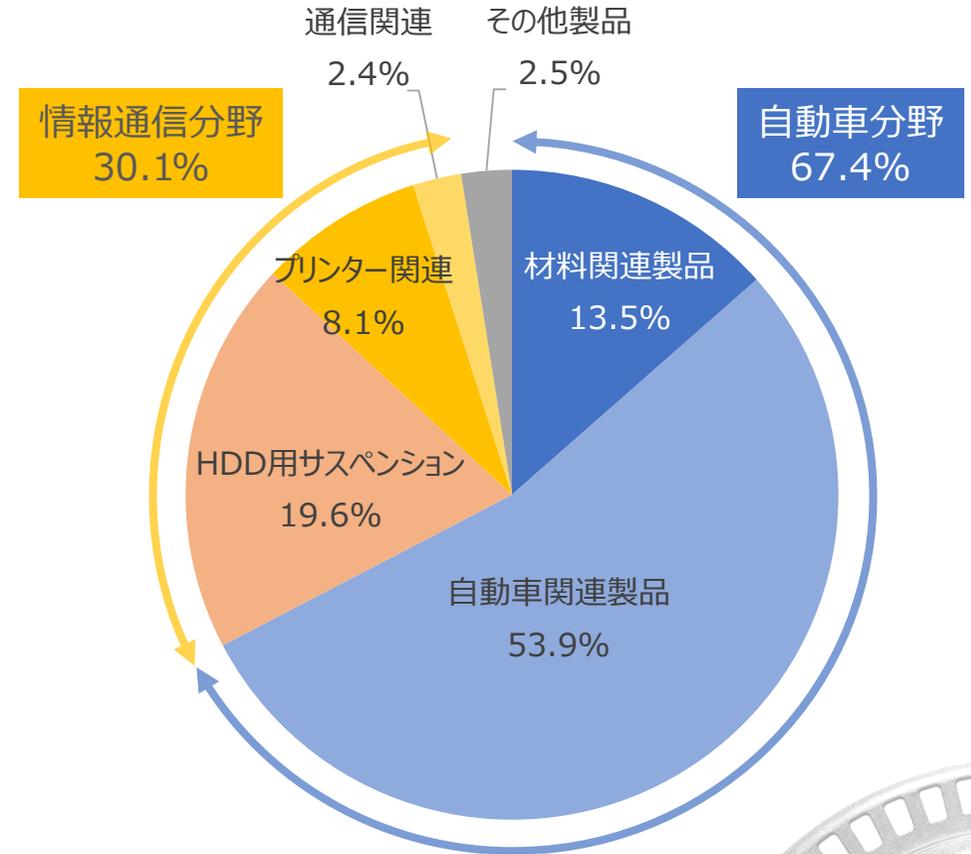
製品区分別売上高（推移・構成比）

製品区分別売上高の推移

(百万円)



2021/3期売上高構成比



2021年3月期 地域別売上高

- 日本 自動車分野：新型コロナ感染拡大による大幅減収だが、下期は前期並みに回復
- 米国 自動車関連製品：新型コロナ感染拡大による大幅減収だが、下期は前期並みに回復
- 中国 自動車分野：昨年1-3月の新型コロナ感染拡大により1Q減収となったが、急回復し増収
- フィリピン HDD用サスペンション：好調継続
- その他 HDD用サスペンション：タイ向けの納入増加

(百万円)	2020年3月期	2021年3月期		
	実績	実績	前期比	
売上高	42,354	40,140	▲2,214	▲5.2%
日本	19,488	16,641	▲2,846	▲14.6%
米国	4,280	3,243	▲1,037	▲24.2%
中国	4,018	4,286	+267	+6.7%
フィリピン	6,002	6,736	+733	+12.2%
その他	8,563	9,232	+668	+7.8%

2021年3月期 連結貸借対照表

- 固定資産増加 : 積極的な設備投資の実施により有形固定資産 + 916百万円
株価上昇により投資有価証券 + 1,178百万円
- 有利子負債増加 : 積極的な設備投資資金の調達により、短期借入金 + 1,487百万円
- 純資産増加 : 当期純利益 + 61百万円、配当金 ▲ 639百万円、
為替換算調整勘定 ▲ 400百万円、投資有価証券評価差額金 + 846百万円

(百万円)		2020年3月期末		2021年3月期末		
		実績	実績	前期末比増減額		
流	動	資	産	25,797	25,207	▲ 589
	現	預	金	8,743	7,570	▲ 1,173
	売	上	債	9,444	9,996	+552
	棚	卸	資	6,835	6,465	▲ 369
固	定	資	産	25,124	28,167	+3,042
総		資	産	50,921	53,375	+2,453
負	債	合	計	15,008	17,054	+2,046
流	動	負	債	11,599	13,781	+2,181
	有	利	子	1,288	2,802	+1,514
固	定	負	債	3,408	3,272	▲ 135
	有	利	子	2,148	1,541	▲ 606
純	資	産	合	35,913	36,320	+407
負	債	純	資	50,921	53,375	+2,453

2021年3月期 キャッシュ・フローの状況

- 営業C/F : 税引前利益は前期比▲1,629百万円。減価償却費は増加し、4,278百万円
- 投資C/F : 自動車関連やHDD用サスペンションを中心に高水準の設備投資を継続
- 財務C/F : 親会社で短期借入、米国・メキシコ子会社で短期・長期資金借入を実施

(百万円)	2020年3月期		2021年3月期	
	実績		実績	増減
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,758		3,014	+255
税引前当期純利益	1,766		136	▲1,629
減価償却費	3,292		4,278	+986
売上債権増減	30		▲666	▲697
棚卸資産増減	▲1,258		237	+1,496
法人税等の支払	▲868		▲330	+538
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲4,618		▲4,356	+262
有形固定資産取得	▲5,226		▲5,107	+119
財務活動によるキャッシュ・フロー	▲1,088		250	+1,339
短期借入金増減	366		1,484	+1,117
長期借入金増減	▲306		▲381	▲74
配当金支払	▲647		▲640	+6

2022年3月期業績見通し



2022年3月期 業績見通しのポイント

過去最高売上高、営業利益黒字化を想定。

- 売上高 47,000百万円（前期比 +17.1%、+6,859百万円）
- 営業利益 400百万円（前期比 +1,693百万円）

世界的な自動車生産回復とHDD用サスペンションの更なる需要拡大を想定
積極的な戦略投資継続に伴う減価償却費増をこなし営業利益黒字化へ

自動車分野

（売上前期比+18.3%、+4,961百万円）

- * 材料関連 : 自動車生産の回復
弁ばね用鋼線は需要好調継続
- * 自動車関連 : 自動車生産の回復
重点戦略製品の新規受注獲得
(バスバー他)

電子情報通信分野

（売上前期比+17.3%、+2,094百万円）

- * HDD用サスペンション :
データセンター投資増で需要は高水準、
新機種増対応で設備投資を促進し、売上増加
(生産効率向上を最優先課題として取り組む)
- * プリンター関連 :
オフィス向けプリンターは低調だが、
家庭用向け好調で全体では微増

2022年3月期 業績見通し

- 売上高 新型コロナウイルス感染症からの自動車生産回復により、自動車分野は+18.3%
また、電子情報通信分野もHDD用サスペンションの増加により+17.3%
- 営業利益 積極的な戦略投資継続に伴う減価償却費増はあるが、営業利益は+1,693百万円改善
償却前営業利益は4,900百万円 (+64.2%) と大幅増加
ただし、HDD用サスペンションの新機種には歩留まりの改善余地大

(百万円)	2021年3月期		2022年3月期	
	実績	計画	前期比	
売上高	40,140	47,000	+6,859	+17.1%
営業利益	▲1,293	400	+1,693	—
償却前営業利益	2,985	4,900	+1,915	+64.2%
経常利益	▲1,000	500	+1,500	—
当期純利益	61	470	+409	+660.8%
一株当たり利益	1.9円	14.8円	+12.9円	—
平均為替レート	106.1円/ドル	105円/ドル	—	—
	123.7円/ユーロ	121円/ユーロ	—	—

※償却前営業利益 = 営業利益 + 減価償却費

2022年3月期 製品区分別売上高見通し

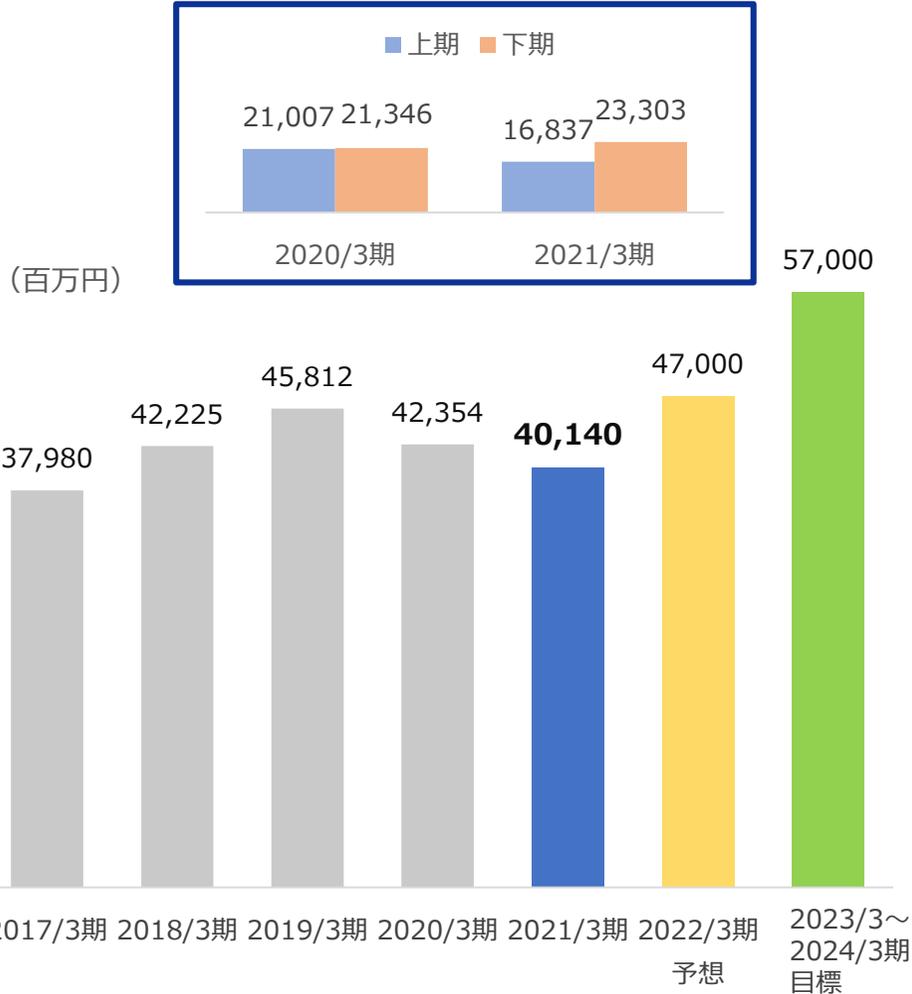
自動車分野の回復、電子情報通信分野の更なる伸長を見込む

- 自動車分野
 - 材料関連 : 自動車生産の回復による増加、欧州向け拡販
 - 自動車関連 : 自動車生産の回復による増加、
重点製品拡販（バスバー・ローターコア他）
- 電子情報通信分野
 - HDD用サスペンション：データセンター投資に伴う需要増加継続
- その他
 - スマートフォン部品売上が減少

(百万円)	2021年3月期		2022年3月期	
	実績	計画	前期比	
売上高	40,140	47,000	+6,859	+17.1%
自動車分野	27,039	32,000	+4,961	+18.3%
材料関連	5,399	6,400	+1,001	+18.5%
自動車関連	21,639	25,600	+3,961	+18.3%
電子情報通信分野	12,106	14,200	+2,094	+17.3%
HDD用サスペンション	7,871	9,600	+1,729	+22.0%
プリンター関連	3,271	3,500	+229	+7.0%
通信関連	963	1,100	+137	+14.2%
その他	995	800	▲195	▲19.6%

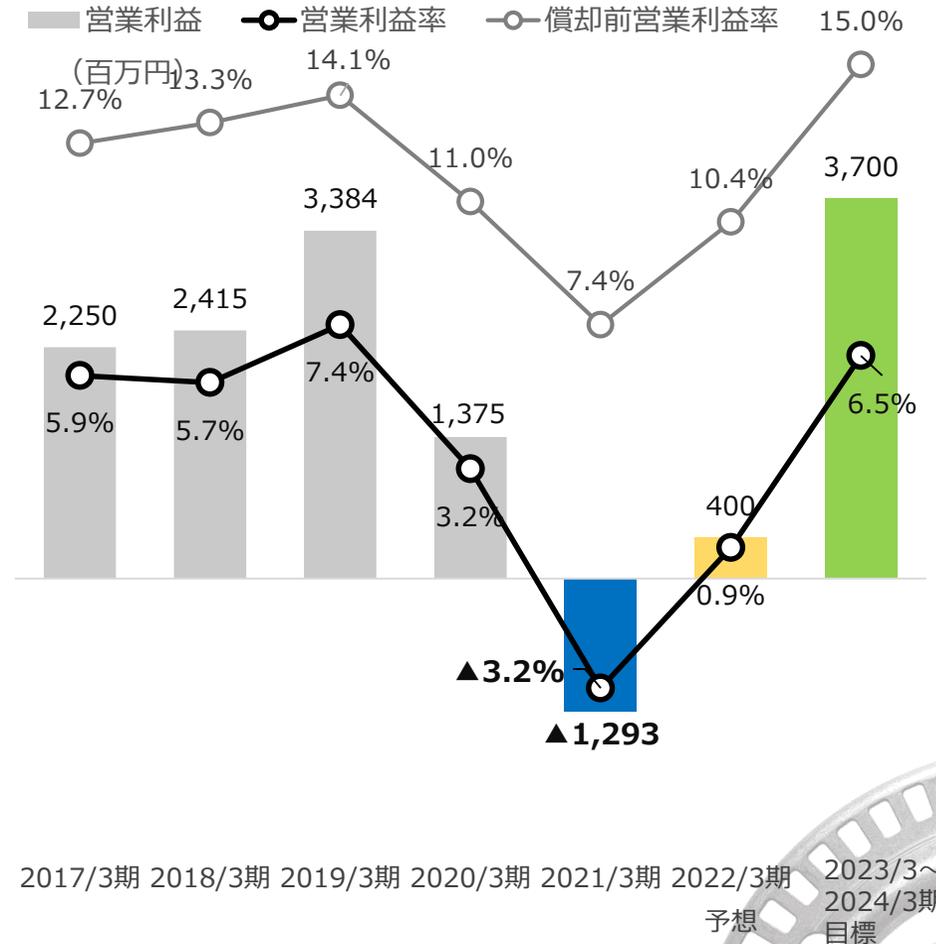
業績推移

売上高の推移



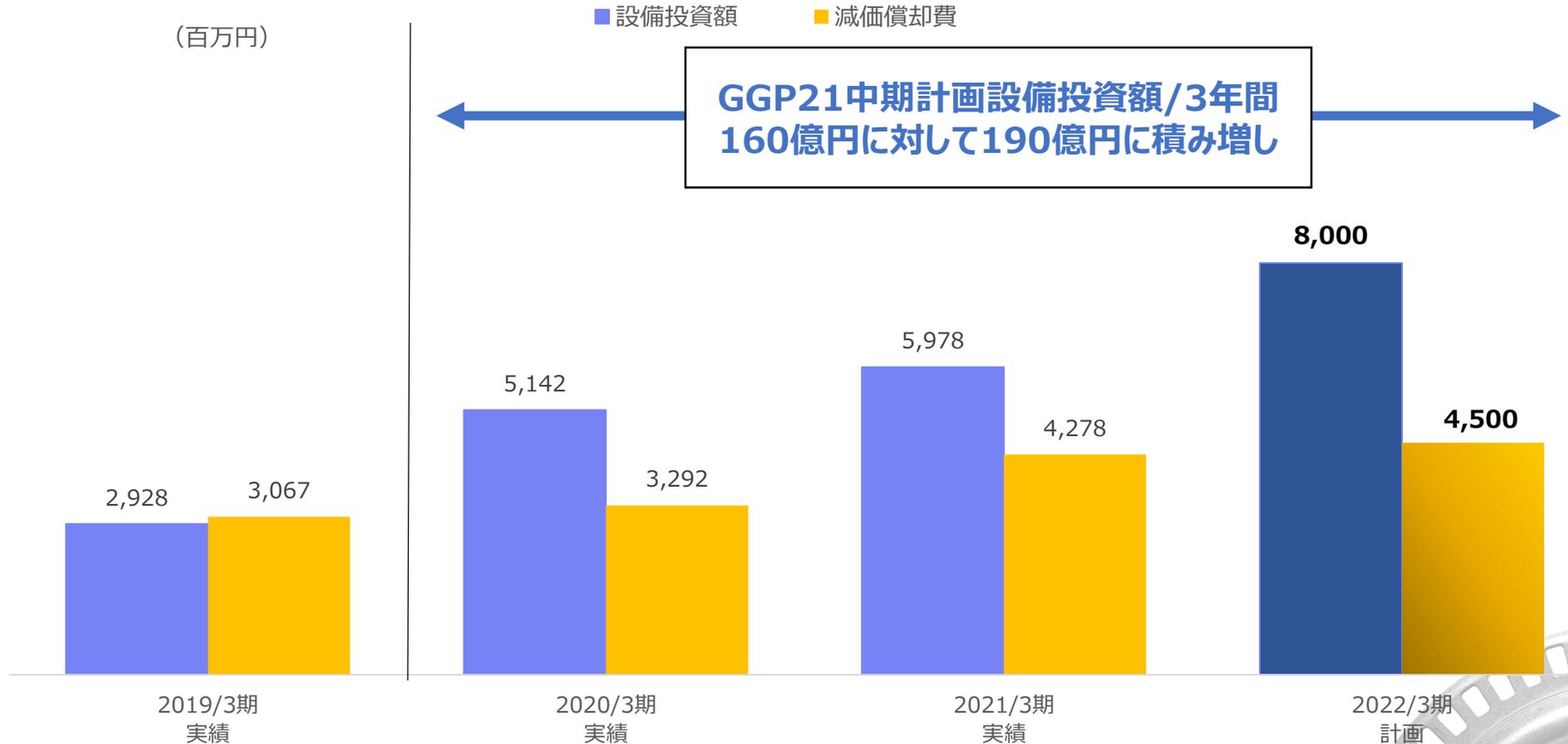
営業利益・営業利益率・償却前営業利益率の推移

* 償却前営業利益率は前期7.4%⇒今期10.4%



2022年3月期 設備投資額・減価償却費見通し

- 2022年3月期は総額80億円（内HDD用サスペンションは51億円）の設備投資を計画
- GGP21中期計画の3年間で当初160億円の設備投資を計画したが、一部前倒し実施



※上記設備投資額については完成ベース

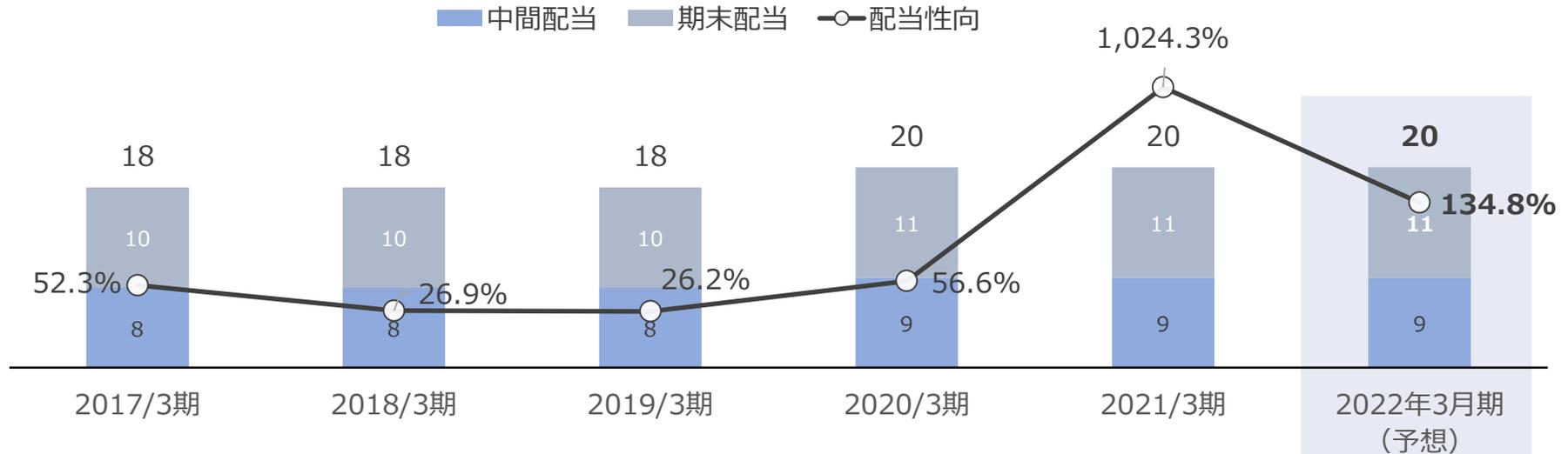
なお、HDD用サスペンション生産設備については、事業継続見通し期間及び設備使用可能見積もり期間の変更により、2022/3期から耐用年数を変更

2022年3月期 配当方針

- 2021年3月期：新型コロナの影響に伴い純利益は減少したが、安定配当は厳守。
- 2022年3月期：将来に向けた積極投資の継続による一時的な利益減を想定し、「中期経営計画GGP21」の安定配当方針に則り、引き続き年間配当20円を予定

配当方針	当期純利益が	配当下限目標	20円
	25億円まで配当性向	30%	
	25億円超配当性向	40%	

(円)



中間配当	8円	8円	8円	9円	9円	9円
期末配当	10円	10円	10円	11円	11円	11円
年間配当計	18円	18円	18円	20円	20円	20円

中長期の成長戦略

GGP21

(Global Growth Plan 2021)

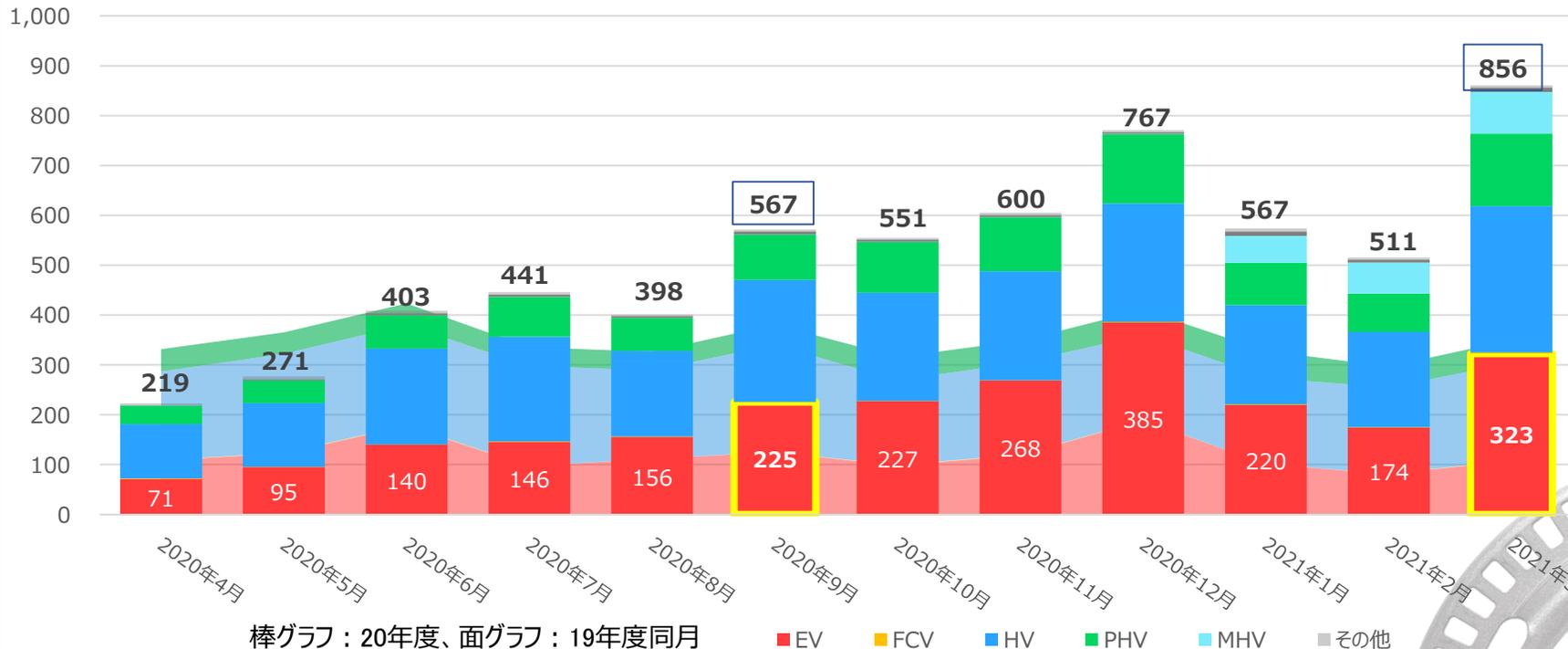


市場動向：直近の環境対応車（電動車）販売推移

- 2019年度は300~400千台/月で低迷していたが、新型コロナウイルスからある程度、自動車販売が回復した2020年9月以降増加中
- 2021年3月は環境対応車合計で856千台に拡大
- 内EV,FCVは323千台/月に増加したが、同様にHV、PHV、MHV（マイルドハイブリッド車）も増加

環境対応車販売実績推移（グローバル合計）

単位：千台



棒グラフ：20年度、面グラフ：19年度同月

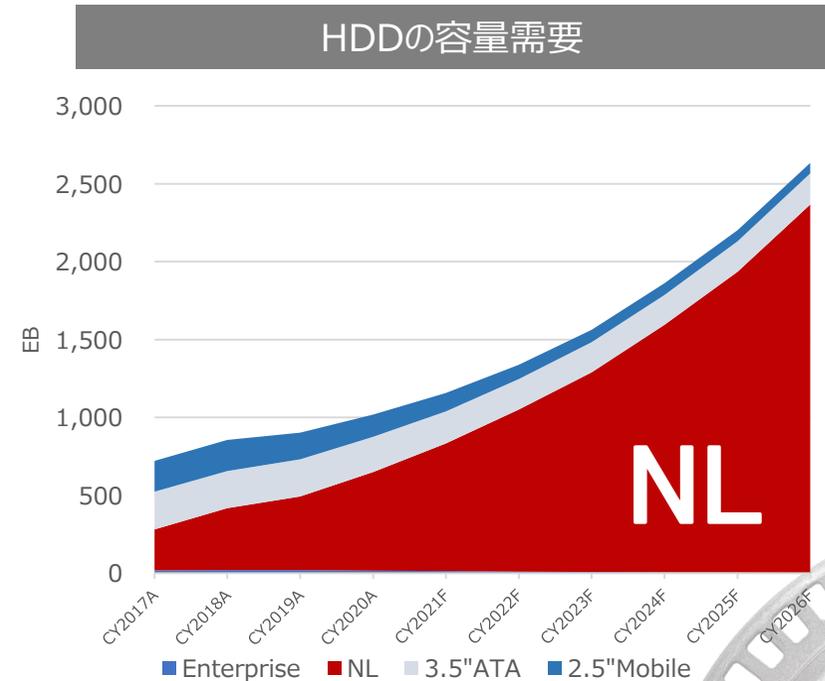
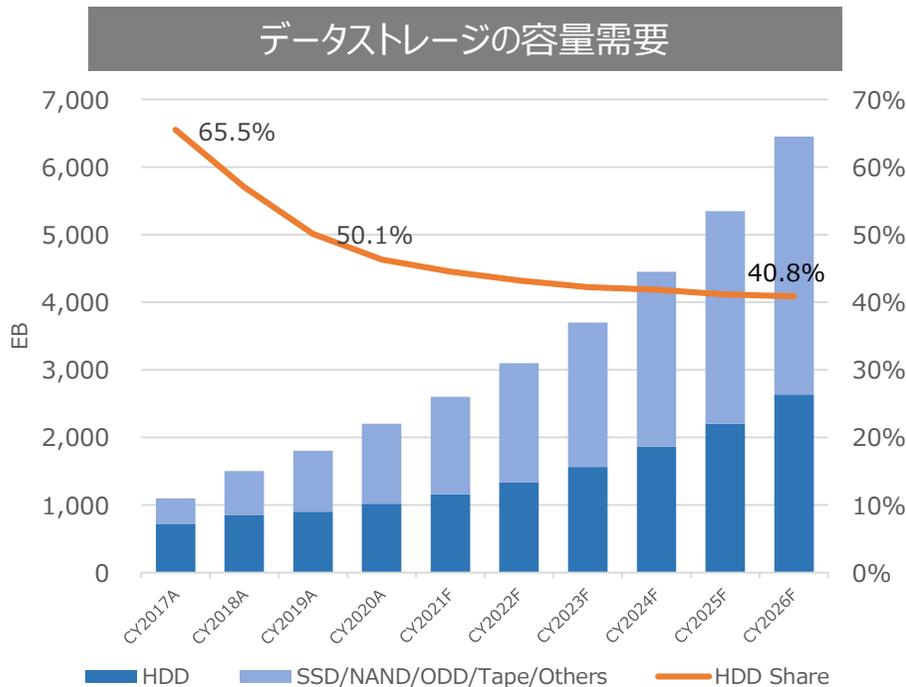
■ EV ■ FCV ■ HV ■ PHV ■ MHV ■ その他

【Data Source : Marklines】

データストレージ及びHDD需要予測

クラウドストレージストレージ容量需要の爆発的な伸びに対して、
ニアライン向けHDDの需要は今後も増加する。

1. クラウドストレージの世界市場はコロナウイルス感染症の発生によって爆発的な成長が見込まれる。
2. データの保存や処理のサービスはデータセンターで一元管理され、大容量のストレージが必要となる。



• EB (エクサバイト) 情報量を表す単位。1 EBは1,000,000,000,000,000,000バイト。

• 出所：テクノサーチシステム

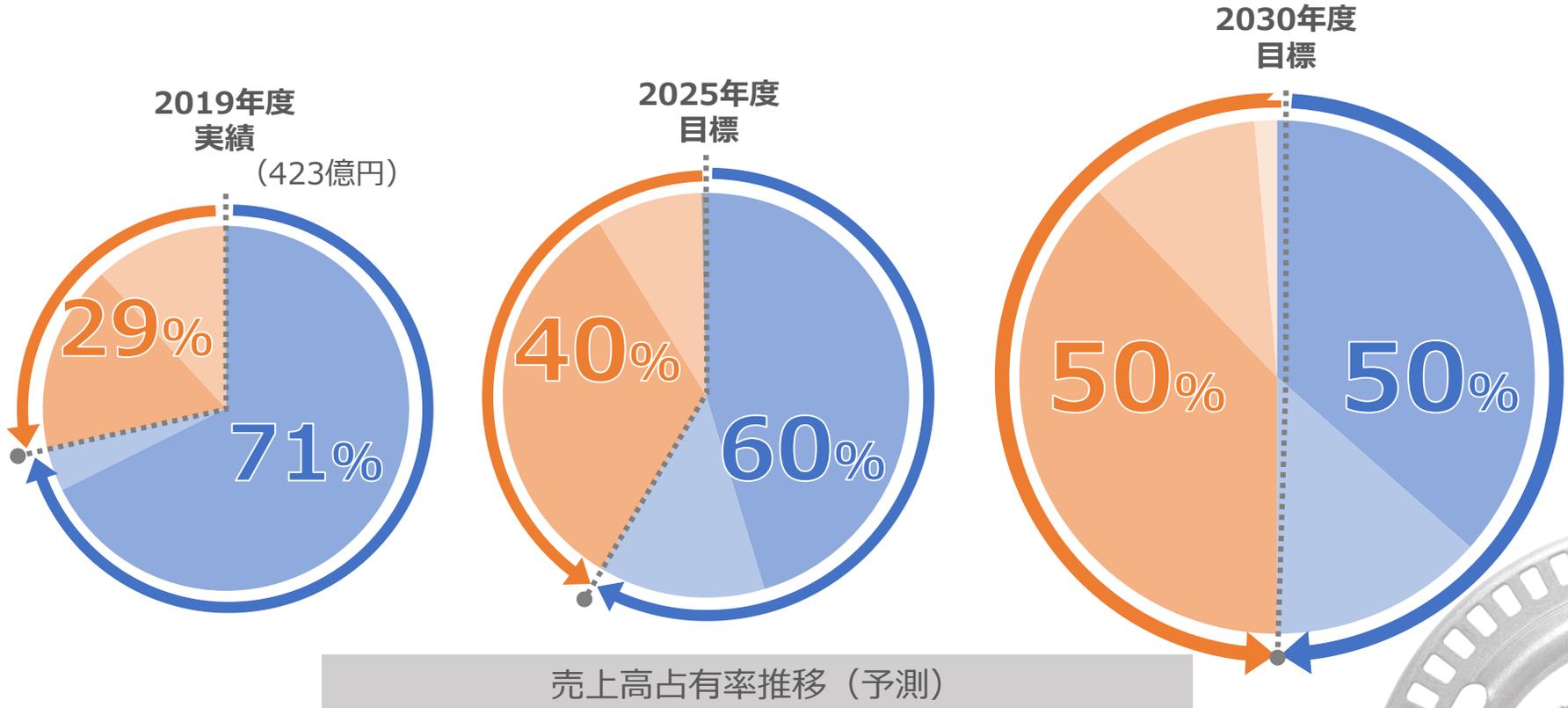
2030年に向けての事業セグメント将来像

自動車分野

- 既存製品
(弁ばね・弁ばね用Wire・リングギヤ他)
- 新規EV・HV関連製品
(バスバー・電流センサー他)

電子情報通信分野

- HDD用サスペンション
- 光関連・プリンター関連
- その他



中期経営計画「GGP21」の主要経営指標と重点戦略

GGP21

売上高
500 億円超

営業利益率
6.5%

資本コスト
(当社想定5.8%)
の水準を安定的に
上回るROEの
確保・向上

配当性向
30%~40%
当期純利益25億円まで→30%
当期純利益25億円超→40%
配当下限 **20**円

成長分野への
経営資源投入
160 億円
(今中計期間内設備投資計
画)

次世代主力事業の
育成と深耕

EV関連製品・医療関連
バスバー・電流センサー

成長性の高い分野への
経営資源の投入

電子情報通信分野
HDDサスペンション・光通信

コア事業における
高需要分野へ継続投資

自動車部品分野
弁バネ・SBW・ゼンマイばね

財務戦略

新規事業・投資案件の基準適正化

コロナの影響により、21年度
の中計目標値の達成に遅れ
が生じている。



重点戦略は変更せず継続・加速

HDD用サスペンション拡大とEV関連製品の開発・立上げ
を最優先課題とする
⇒2022~2023年度で売上高570億円超
営業利益率6.5%を達成する

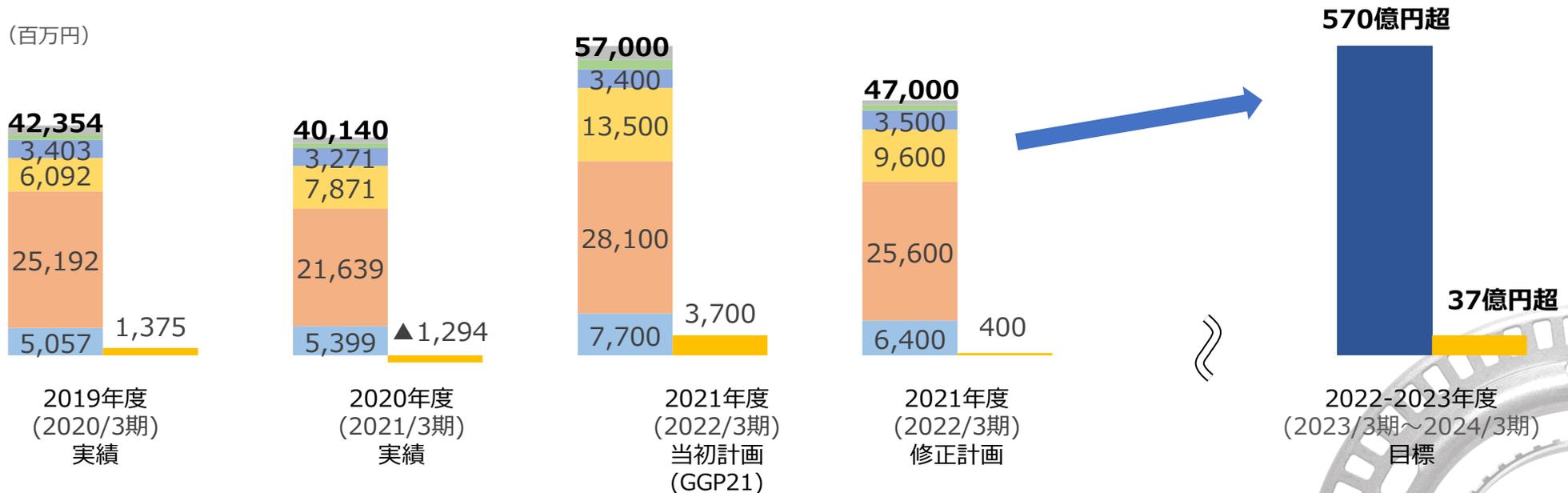
2021年度(2022年3月期)業績見通し (GGP21対比)

※新型コロナウイルス感染症による影響で、GGP21目標達成は後ずれへ

セグメント	2021年度(2022/3期)の売上未達原因	2023年度(2024/3期)までの対策
材料関連	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナによる自動車減産影響 ・欧州排ガス規制強化 	<ul style="list-style-type: none"> ・主要顧客との長期契約による売上確保 ・高機能化と新規顧客への拡販
自動車関連	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナによる自動車減産影響 ・電動化部品拡販未達 	<ul style="list-style-type: none"> ・高機能化シャントセンサー、長尺バスバー他積極的拡販
HDD用サスペンション	<ul style="list-style-type: none"> ・旺盛な需要があるが、製品構成MIX変更、コロナによる生産拠点制約等 	<ul style="list-style-type: none"> ・新機種有能力増強と生産効率改善に注力

製品区分別売上高及び営業利益の推移

■ 材料関連 ■ 自動車関連 ■ HDD用サスペンション ■ プリンター関連 ■ 通信関連 ■ その他 ■ 営業利益

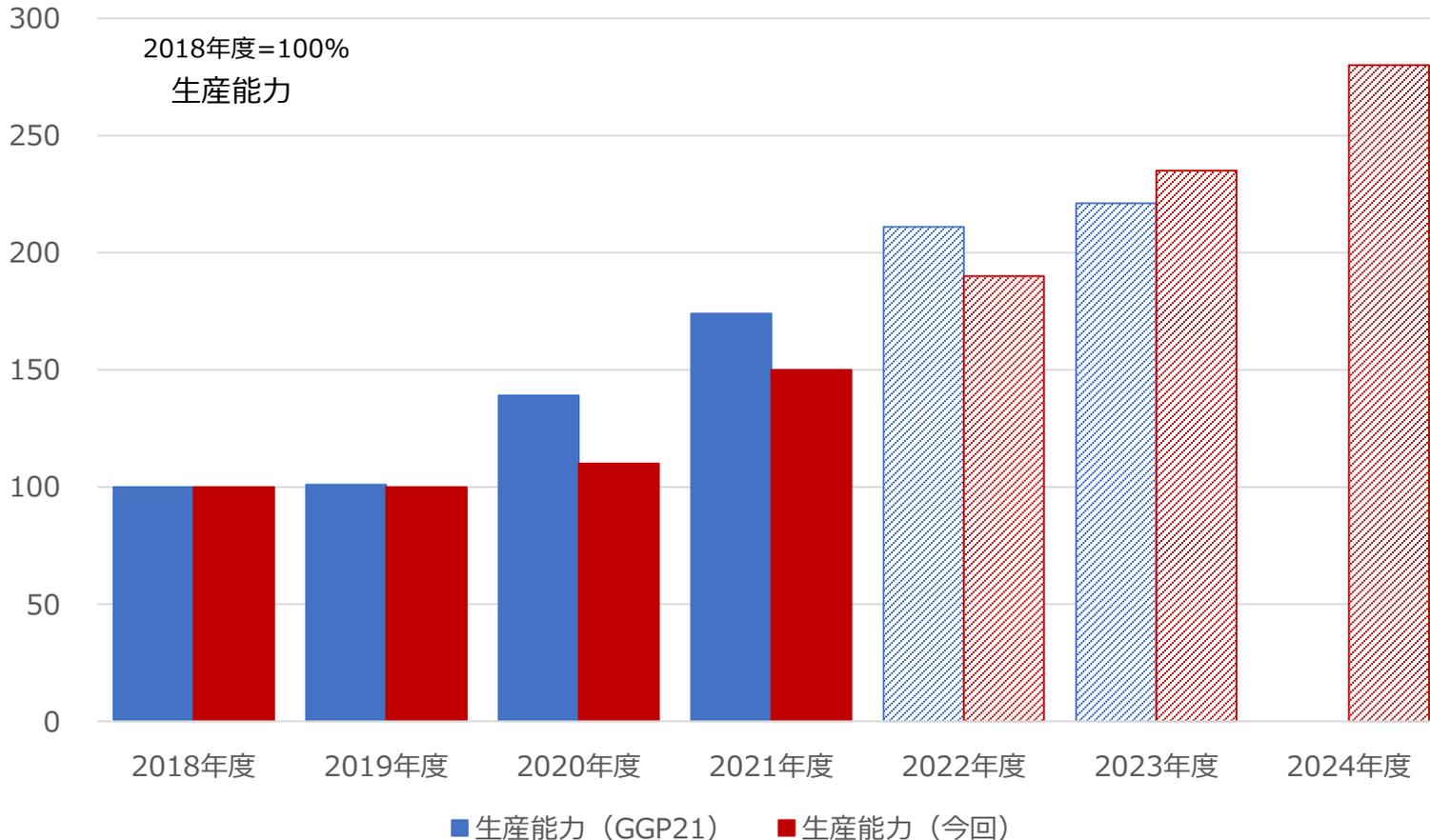


二アライン向けHDD用サスペンション生産能力増強

POINT

- 当初計画GGP21では生産能力を2018年度対比2.2倍に増強する計画（2022-2023年度）
 ⇒ 2020-2021年度は、新型コロナウイルス感染症の影響によるライン立上げ遅れや顧客製品構成MIX変更により、生産能力増強は計画未達
 ⇒ **生産能力を2018年度対比2.8倍に増強する計画に積上げ**

二アラインドライブ用サスペンションの当社生産能力計画



CASE対応～『電動化"E"』に注力

CASE(ケース) とは

- Connected (インターネットとの接続)
- Autonomous (自動運転)
- Shared & Services (シェアリング)
- Electric (電動化)

電流センサー次世代開発製品

電流センサー



バスバー



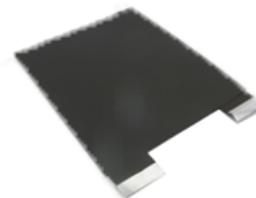
シャントバスバー



シャントセンサー

Fuseセンサー

次世代開発製品



活性炭キャパシタ



耐熱コイル



歩行支援ロボット
「Orthobot」

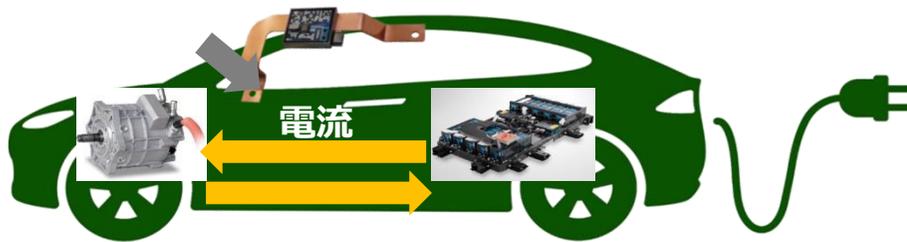
電流センサーの事業化

ワールドワイドで顧客ニーズに合わせた製品開発により事業規模拡大中

シャントセンサーの採用は徐々に増加

シャントセンサー

用途:電流の監視/異常検出/電流コントロール



電動フォークリフト用途 量産開始

(2017年4月～)



HVトラック用途量産開始

(2019年12月～)



自動搬送装置用途

(2020年1月～)

Withコロナ時代
宅配ビジネス・無人倉庫の拡大



太陽発電用途量産開始

(2020年4月～)

シャントバスバーが北米向け EV乗用車への量産供給確定

(2021年9月～)



その他新規事業の展開状況

自動車電動化対応（バスバー）

- EV・HV・PHEV関連の車載用バッテリーユニット、モータ、インバーター用の電源供給ターミナル。需要増加や仕様の多様化が加速
- 従来から量産していた短尺品は、中国メーカー参入により低価格化
- 当社は、特に取り扱いが難しいとされる中長尺サイズのフォーミング加工によるバスバーに注力（展開長1,000mm相当の加工が可能）
- 22年度から国内自動車メーカー2社(EV・HV車)へ新規品量産採用

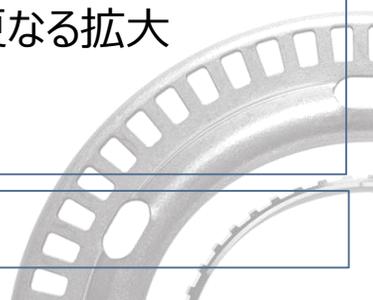
医療介護事業の推進（歩行支援ロボット）

- 京都大学等との共同研究開発により上市した歩行学習支援ロボット「Orthobot（オルソボット）」は国内リハビリテーション施設で使用開始
- 現在、新型コロナウイルス感染症の影響により医療・介護機関への訪問が難しいが、今年度40台、将来的に更なる拡大を目指す

環境エネルギー関連（竹炭）

- 通常の竹炭とは異なる電気特性を生かし、国産電気自動車のインパネ用塗料として採用。
- 今後自動車の内装品はタッチパネル式が増加する予想で更なる拡大期待される
- 竹害削減、CO2削減効果で環境改善にも貢献

車載用LED部品について、開発完了し、量産開始



【ご注意】

本日の説明資料には、当社の事業に関する業績見通し、将来の計画・方針等に関する記述が含まれていますので、株券等の取引を行う際には、金融商品取引法その他の法令の遵守をお願い申し上げます。また、将来予想は、現時点で入手できる情報に基づき作成しており、既知または未知のリスク・不確実な要因等を含んでいるため、当社の実際の業績、事業活動や財政状態が、将来予想の内容と大きく異なる場合がありますが、そのような場合であっても当社は、将来予想の内容を更新または修正して公表・開示する責任を負うものではありません。